

シンポジスト略歴

ピーター・ルーリ (Peter Lurie)

医師・公衆衛生修士。ラルフ・ネーダーがワシントンDCに設立したアドヴォカシー（権利擁護）団体であるパブリック・シチズンの医療研究グループの副部長。研究者として働いていた時期は、使い捨て注射針のプログラム、HIVの母子間感染研究の倫理的側面、発展途上国におけるHIVワクチンの臨床試験、および経済発展政策がHIVの蔓延に及ぼす重大な影響などについての論文を執筆。パブリック・シチズンにおいては、たくさんの薬の販売禁止や添付文書改訂のための取り組み、また、ある種の安全でない医療用針の禁止、鉛が含有された芯を持つろうそくの禁止、労働者のベリリウム被曝の減少、そしてレジデント医師の労働時間を短くする取り組みに関っている。

クリストフ・コップ (Christophe Kopp)

医師。プレスクリール誌のスタッフ編集者。プレスクリール・インターナショナル（フランス最大の独立医薬品情報誌プレスクリール誌の英語版）の編集長を1992年（発刊）以来つとめている。国際医薬品情報誌協会（ISDB）のプレスクリール誌代表。2005年～2008年12月までISDBの事務局長。1999年から2002年までISDBの会長。現在は「*Association Mieux Prescrire*（よりよい処方連合：プレスクリール誌の発行母体）」の理事会メンバーであると同時にパリで、家庭医としての仕事ももつ。

水口真寿美 (Masumi Minaguchi)

弁護士。1997年6月の薬害オンブズパーソン発足のときから現在まで事務局長をつとめている。東京HIV訴訟（副団長）、ハンセン病国家賠償請求訴訟、イレッサ訴訟等を手がける。薬害対策弁護士連絡会の設立を呼びかけ、2004年の発足時から2006年まで第1期の事務局長をつとめた。本年5月から、厚生労働省「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」委員。